

編集後記

ご存じのごとく、ANM のインパクトファクターは今や 1 を超えました。本年 6-8 月の投稿数は前年比で 40% 増加しています。このうち 69% は海外からの投稿です。当初はトルコ、韓国、中国などのアジア諸国からの投稿が主でしたが、最近は米国、ヨーロッパ各国からの投稿が増加しつつあります。WEB での論文ダウンロード数は月間 3,000 件を超えています。これらの事実は、ANM が国際誌としての地歩を十二分に固めたと言ってよい段階にあることを示しています。

ANM の国際誌として成功は、わが国の核医学研究レベルの高さに負うところが大であると信じます。しかし、本誌の過去の編集方針がプラスの背景として、大きくあるのだろうと感じます。手元に古い ANM をお持ちの方は 1987 年 9 月の ANM 第 1

巻 1 号をご覧下さい(若い方々は、先輩の部屋・図書館に足を運んで下さい)。最初から日本語が一切排除され、タイトル、誌面にローカル誌の色彩・匂いが感じられません。20 数年前にこの方針を打ち出された先輩諸氏の志の高さに感服するばかりです。

先日、松田博史先生から ANM / 核医学の編集長の任を引き継がせていただきました。今の波に乗つていればよいのだろうと気楽にお引き受けしたものの、これらの事柄を考えると、もう一つ大きな波に乗らなければいけない時期に来ているのだと気付きます。そのためには、若い方々に優れた論文を投稿していただくことは言うまでもないことなのですが、それと等しく重要なのは、ベテランの方々の、タイムリーで、辛辣であると同時に投稿者の意欲をかき立てるような査読です。会員皆さんのご協力を切に願います。

(編集 清剛)

核医学編集委員会

委員長：	絹谷 清剛	(金沢大学大学院医学系研究科 バイオトレーサ診療学)
副委員長：	佐々木 雅之	(九州大学大学院医学研究院 保健学部門医用量子線科学分野)
委員：	石井 一成	(近畿大学医学部 放射線医学講座 放射線診断学部門)
	犬伏 正幸	(放射線医学総合研究所 分子イメージング研究グループ)
	河邊 譲治	(大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
	河村 和紀	(放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
	久慈 一英	(埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
	下瀬川 恵久	(大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座)
	立石 宇貴秀	(横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学講座)
	橋本 順	(東海大学医学部基盤診療学系 画像診断学)
	東達也	(滋賀県立成人病センター研究所)
	渡部 浩司	(大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核医学」第 46 卷 4 号 平成 21 年 11 月 30 日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷 清剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-45 (社) 日本アイソトープ協会本館 3 階

発行所 一般社団法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社